

# 「侵入者」

—初稿—

2023/10/28

石川

〈人物表〉

山本 浩一 (50)

山本 貴子 (47)

山本 えりか (16)

謎の女 (27)

警官 A

警官 B

〈ログライン〉

山本家に女が侵入するが、逮捕される。

〈ねらい〉

ト書きが読みやすいか。速く書く。

1. 山本家・外観（夜）

住宅街に囲まれた小さな一軒家。ガレージには車。玄関と二階の部屋に電気が点いている。

2. 山本家・リビング（夜）

入ってすぐにキッチン、その先にテーブル。奥には庭が見える。

キッチンで洗い物をする山本貴子（47）。

ソファーには山本浩一（50）。あくびをしながらテレビを見ている。

浩一 「（貴子の方を見て）週末どこか行こうか」

貴子 「あの子部活よ」

浩一 「あっそう、大変だな」

浩一、テレビに戻り、またあくびする。  
テレビの音だけが響く。

と、微かに玄関のドアが閉まる音がする。

浩一、音の方に顔を向けるが、またテレビに戻る。  
洗い物する貴子。

廊下の方、トイレの流れる音がする。

貴子、気付いて、流れる水を止め、

貴子 「今トイレから音しなかった？」

浩一 「（テレビを見ながら）えりかだろ」

貴子 「あの子二階よ」

浩一 「……そんなわけないよ、降りてきたんだろ」

貴子 「いや」

浩一、貴子と顔を見合わせる。

と、廊下に目がいき、

浩一 「……」

貴子 「（浩一を見て）？」

と、廊下の方に振り返る。

とそのとき、一人の女（27）が入ってくる。ロングヘアで白いワンピース姿。全体的に薄汚れている。

呆然とする浩一と貴子。

女は目を見開いていて瞬きをしない。  
女、その場で立ったまま浩一を見つめる。

浩一、身動きが取れない。

貴子、様子を伺いつつ、スマホでメッセージ。

× × ×

スマホ画面。

「落ち着いて」「降りてこないで」「警察呼んで」

× × ×

女と画面を行き来する貴子。

× × ×

スマホ画面。

「わかった。大丈夫？」 「大丈夫、武器は持ってない」

× × ×

と、ゆっくりと貴子の方に顔を向ける女。

貴子、慌ててスマホを隠す。

浩一、座ったまま、

浩一 「おい、なんなんだ、あんた」

女、浩一の方に向き直り、答えない。

と、二階から階段を一段降りる音が聞こえる。

貴子、気付いて、

貴子 「あの、帰ってもらえませんか。誰にも言いませんから」

女、貴子の方を向き、真顔で見つめる。

階段を降りる微かな音。

貴子 「お願いします……」

浩一、貴子を見る。

貴子、目で浩一とやりとりする。

と、女、気付いて廊下の方を向く。

山本えりか（16）が部屋の前にいる。

浩一 「こっちへ来るな」

貴子 「えりかいるの？」

えりか 「パパ、大丈夫？」

女、えりかを見ている。

貴子 「えりか、来ちゃだめ」

えりか「ママ……」

浩一「そこにいなさい」

えりか、不安そうな表情。

と、女、歩き出す。

貴子「！」

女、浩一の元へ行き、体が触れあう距離に座る。

浩一「……」

女、テレビを消して、浩一にニタリと笑う。

浩一、動けない。

えりか、気付かれないように部屋に入ろうとする。

浩一、えりかに目で促す。

女、顔を動かして、浩一に視線を合わせる。

浩一、視線を外すことができない。

女「ねえ」

浩一「！」

女「（笑って）ごめんなさいね。お邪魔して」

浩一、言葉が出ない。

と、貴子、庭の方へ手で合図を送る。

ガラス窓がスライドし、警官2人が入ってくる。

女「！」

構え腰の警官A、B。

警官A「そこまでだ」

浩一、勢いよく警官の方へ転がりこむ。

警官B、浩一を保護する。

警官A、女との間合いをはかっている。

女は警官Aを見つめたまま微動だにしない。

警官A、Bに顎で促す。

警官B、ソファアの反対側へ回り込む。

警官A、Bゆっくりと詰め寄り、女を取り押さえる。

貴子、安堵の表情。

警官A、女の手到手錠をかける。

警官A「21時15分。住居侵入罪で逮捕する」

女、手錠を楽しそうに見ている。

浩一「……」

警官A「立て」

と、女を立たせ、廊下の方へ連れて行く。

警官B「(貴子に)ではこれで」

と、警官Aについていく。

堂々と歩く女。えりかとのすれ違い様、真顔でえりかを見つめる。

えりか「……」

警官A「おい」

と、女の頭を押さえる。

女と警官A、B、出ていく。

### 3. 山本家・前(夜)

パトランプの回るパトカーに入れられる女。

パトカー、発進する。

### 4. 山本家・リビング(夜)

呆然としたままの浩一。

立ちつくしたままのえりか。

貴子「(えりかに)大丈夫?」

えりか「(ため息)はあ」

と、力なく崩れ落ちる。

えりか、疲れ切った様子。

貴子「大丈夫よ」

と、えりかに駆け寄る。

浩一「えりか」

と、えりかの元へいく。

肩を寄せ合う3人。

浩一と貴子、えりかの背中を摩る。

浩一「よくやったぞ、えらいな」

貴子「ありがとね」

えりか、笑いながら涙が出てくる。

えりか「怖かったよお」

浩一「そうだな」

と、浩一も涙が出てくる。

貴子も泣いている。  
3人、再び肩を寄せ合う。

(了)